

## 第6回多可町就学前教育・保育検討委員会会議録

1 日時：平成22年10月4日(月)15:00～17:00

2 場所：八千代地域局2階第1会議室

3 出席者：

委員 鈴木委員、青山委員、有田委員、上郡委員、平位委員、安平委員、清水谷委員  
西田委員、仲田委員、吉田委員、岡本委員、萬浪委員、越川委員  
事務局 岸原教育長、藤本副課長、藤原課長補佐

### ○ 協議内容

- ・ 就学前教育・保育サービスの在り方についてまとめ
- ・ めざす子ども像 園と保護者等による子どもの育ちへの関わり

委員長	就学前教育・保育サービスの在り方について
事務局	※（会議資料P2～14に基づき、これまでの協議内容を確認した。）
委員	3. 4. 5歳児の預かり保育がなくなるが、一時預かりをしてほしい。金額については今後事務局で検討してほしい。
事務局	一時預かりは、実施する予定だ。P15に預かり保育と一時預かりの料金を記載している。
委員	出産による里帰りでは、預かり期間が長くなる。金額がかさむ場合は入所扱いで対応している。定員オーバーの際は保育が大変である。保育士を登録制にして人数が確保できたらよいのだが。
委員	一時預かりが気に入って長期になる場合もある。
委員長	一時預かりの料金設定や受け入れ体制について今後事務局で検討して、今後検討結果を検討委員会で報告して欲しい。
委員	5歳児の保育料については検討されたのか。
事務局	シミュレーションをした結果、これまでの収入を確保する観点から、18,000円程度を上限にしたら若干収入が減る程度で済む。5歳児で一番多く負担する人は32,500円であり、上限を設定することで安くなる方もおられる。福祉的に前進したことになるので、5歳児だけ保育料については上限を決めたい。
委員長	5歳児の上限を決めることで、極端な増額を防げるということか。公平化に近づける可能性があるので検討結果を反映して欲しい。第3子の保育料軽減は続け、せっかくの多可町の施策なので、具体的にわかりやすくお得であることを保護者にもPRして欲しい。人員配置についてはこのような結果でよいか。
委員	人員配置については私立のほうから要望したい。幼稚園と保育園の人員配置の基準が違う。それがそのまま残るのはどうか。より年齢の高い子に手厚い職員配置となっている。
事務局	障がいを持つ子の人数に応じて配置している。
委員長	さらに充実する方向で、頑張ってもらいたい。前回積み残しになった、預かりの廃止と料金の設定については、保護者の負担が増えない方向で進めていただいている

	<p>ようなので、保護者の皆さんの声を聞くなどして進めて欲しい。これまで検討した12項目についてこれでよいか。(一同了承)</p>
委員長	<p>めざす子ども像について</p>
事務局	<p>※(会議資料P15～33に基づき、説明した。)</p>
委員長	<p>提示していただいた資料は、自分の感覚と同じか。</p>
委員	<p>子育てふれあいセンターは未就園児を対象としている。なかなか就園児には情報がいかない。</p>
委員	<p>ファミリーサポートセンター事業はあるか。</p>
事務局	<p>次世代行動計画の検討結果で、取り組んでいない。</p>
委員長	<p>(資料をみると)保護者は経済的支援を求めている。保護者として実感されていることは何か。</p>
委員	<p>低年齢から保育してもらう方が発達(成長)は早く感じる。</p>
委員	<p>4月から保育所に行っている。できることが増えた。喜んで行っている。運動会があったが、成長を実感した。</p>
委員	<p>キッズランドの目標に書いていることはできている。挨拶ができてよく遊べている。</p>
委員長	<p>こうあってほしいことはないか。</p>
委員	<p>泥んこになってもっと遊んだらと思う。</p>
委員	<p>今で満足。</p>
委員	<p>(多可町は)自然いっぱいなので、自然いっぱいの中で遊ばせていただけたらと思う。家では体験できないことができている。</p>
委員長	<p>小学校から見てどうか。</p>
委員	<p>学校教育が納得させる教育となっているので、あきらめない教育ができたらと思う。無理をさせない教育の中であきらめさせている。いろんな可能性があるのに切ってしまうている。</p>
委員	<p>子どもの可能性を伸ばすことが大切。一つのことにチャレンジして限界まで伸ばすことが大切。</p>
委員長	<p>のびのび就学前は遊んでいる。どこまで継続的にできるのか。就学前から小学校、中学校と進むにつれて失望する。小学校で充実しているほど中学校で不適應を起こす。</p>
委員	<p>学校と幼保のギャップがかなりある。学校からみるとのびのび、規律が付かず社会的規範が必要になる。のびのびすることで不適應を起こす。小学校での学級崩壊につながる。小学校と幼保の連携をどうとるかが課題。</p>
委員	<p>「森のようちえん」の取組を視察に行った。自然の中で保育をし、自然に浸って遅い子に保育されていた。幼保では浸りきらせることが重要である。浸りきらせることが不十分だと小学校で不適應を起こす。浸りきらせると集中力が付き小学校でも不適應を起こさない。</p>

委員	小学校でじっと座らせてほしいという声を聞くが、興味を持たせることが大切。運動経験の少ない3歳児がいる。一步ずつじゃないと階段を下りられない子がいる。思いっきり遊ぶことで集中力が付く。
委員	多可町の自然環境はすごい。保育園の周りの環境もよい。園外保育の環境も恵まれている。子どもとともに植物を育てた。答えを言わない。なぜかと思える子が大事。
委員	外遊びや集団遊びが大事。体力のデータをみると劣っていた。体力が付く就学前教育にしないといけない。今の子は歩かない。
委員長	浸りきる教育。疑問を持ちながら小学校へ行く。保護者は就学前教育に満足されている。小学校へつながる環境を整えていくことが焦点となる。
事務局	※(キッズランドかみの説明会でのアンケート結果及び次回の会議の日程を事務連絡する。)